2026年度上半期報告
説明資料

２０２６年１１月２４日

富国生命保険相互会社

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

目次

- ◆ ポイント …… 2
- ◆ 保険業績の状況 …… 4
- ◆ 資産運用の状況（富国生命単体） …… 6
- ◆ 基礎利益、自己資本の状況 …… 9
- ◆ ソルベンシー・マージン比率（ESR）の状況 …… 10
- ◆ 2026年度業績見通し …… 11
- ◆ 主要業績（2社合算、富国生命、フコクしんらい生命） …… 12

【ご参考】

- ◆ 「THE MUTUAL ACT 2027」 …… 13
- ◆ 配当還元の加速 …… 17

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

ポイント

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

1 保険業績は引き続き好調に推移
保有契約高は2003年度以来23年ぶりに反転増加

- 新契約高は、保障性商品の新契約が増加したことから前年同期比25.7%増加。富国生命とフコクしんらい生命の2社合算で同20.8%増と3年連続増加
- 解約失効高は、きめ細かいアフターサービスにより2年連続で減少し同2.5%改善
- 営業純増額（新契約高－解約失効高）は、2025年度年間実績を上回り前年同期比2倍。保有契約高は前年度末比0.7%増加、2社合算で同0.9%増加

2 増収・増益
基礎利益※1は4年連続過去最高※2

- 2社合算の保険料等収入は前年同期比4.2%増加
- 2社合算の基礎利益は同41.2%増加。経営指標である標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は同19.3%増加し、4年連続過去最高。富国生命の利差益が同35.5%増加し、基礎利益全体を押上げ
- 経常利益は同1.9倍の783億円と過去最高

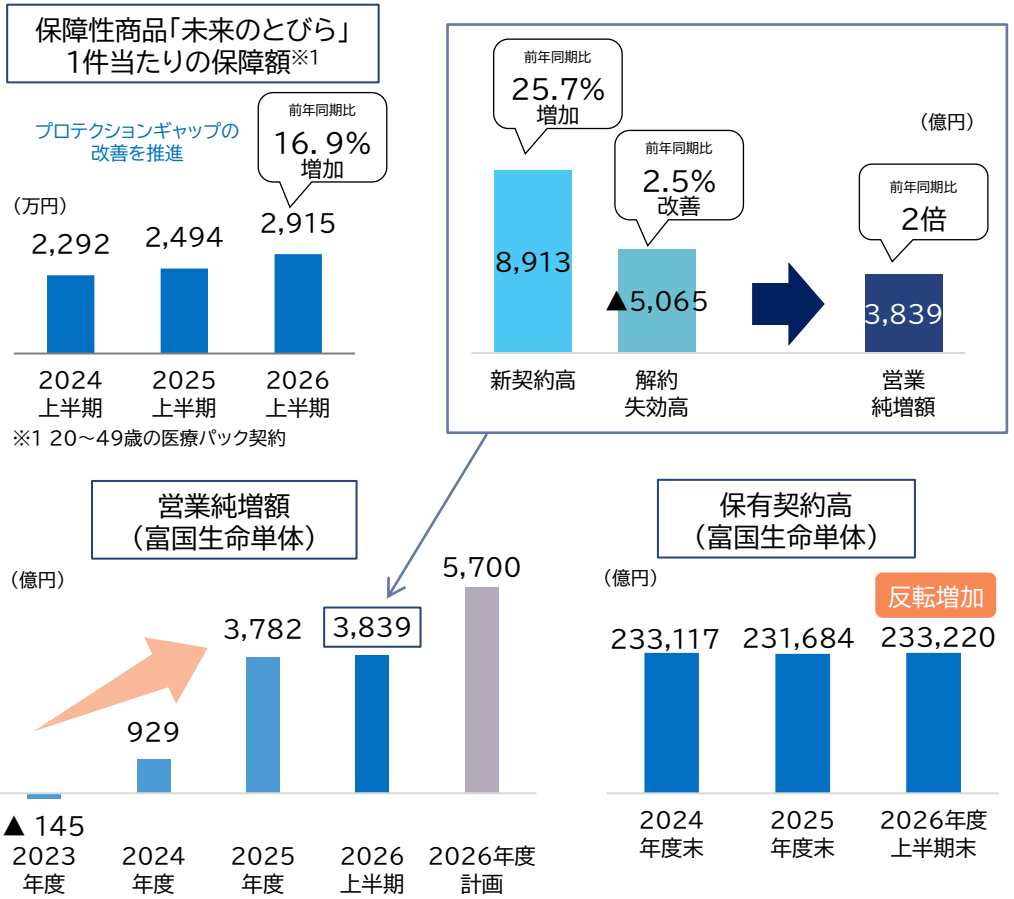
※1 標準責任準備金積立負担を除く　※2 2021年度以前は現行基準で算出

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

ポイント

1 保険業績は引き続き好調に推移
保有契約高は2003年度以来23年ぶりに反転増加

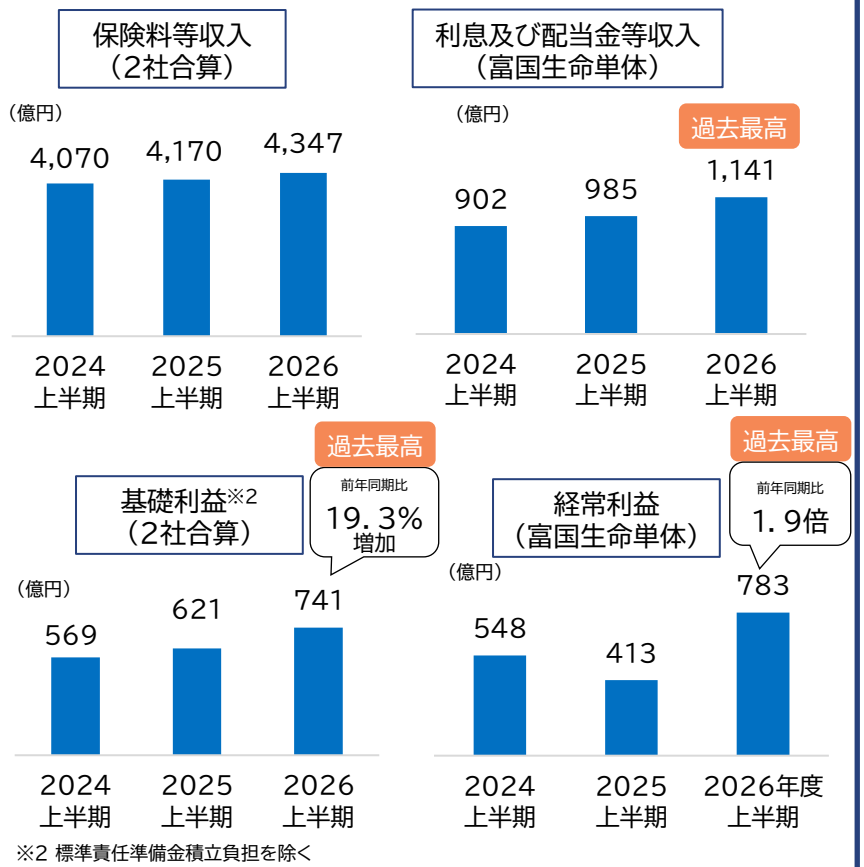
- 保障性商品「未来のとびら」1件当たりの保障額の増加などにより新契約高は増加。きめ細かいアフターサービスにより解約失効高は減少
- 営業純増額は2025年度年間実績を上回り、2026年度計画に対して67%まで進捗



＊プロテクションギャップ：お客さまが本当に必要としている保障額と実際の加入額との差（P14参照）

2 増収・増益
基礎利益は4年連続過去最高

- 保険料等収入は、富国生命で企業年金保険の引受けが増加し6年連続増加
- 過去最高の利息及び配当金等収入により、基礎利益全体を押上げ。基礎利益・経常利益ともに過去最高



※2 標準責任準備金積立負担を除く

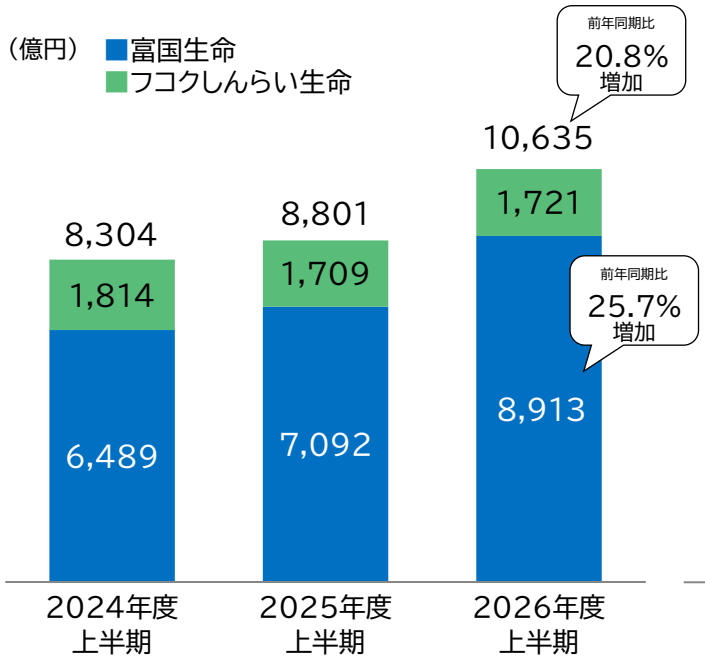
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

保険業績の状況 （１） 新契約、解約失効

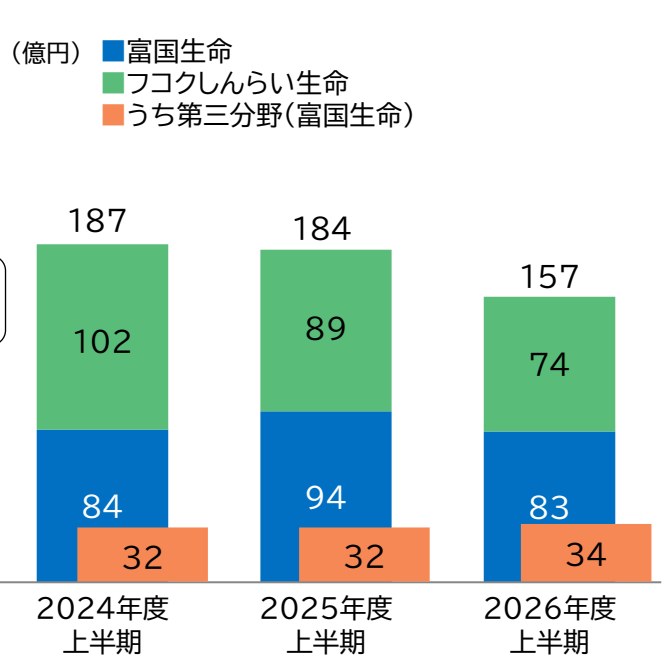
人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

＊個人保険と個人年金保険の合計

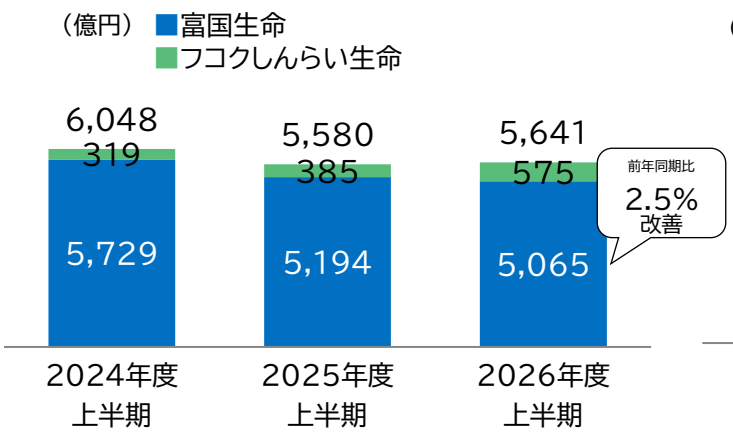
新契約高



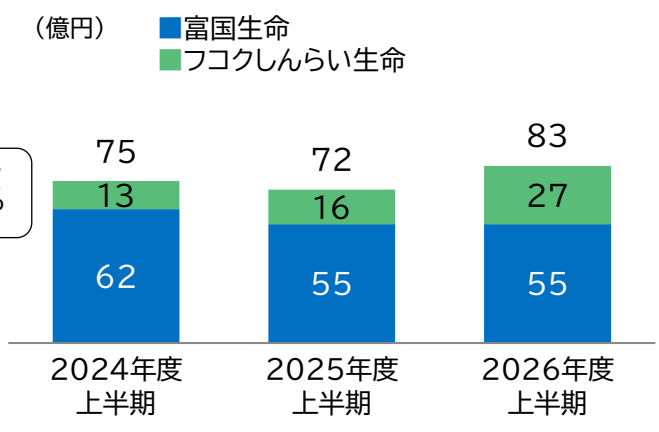
新契約年換算保険料



解約失効高



解約失効年換算保険料



- 新契約高は、前年同期比20.8%増と3年連続増加。富国生命で、保障性商品「未来のとびら」の販売件数・1件当たりの保障額ともに増加
- 新契約年換算保険料は、同14.3%減少。2025年度に富国生命で発売した一時払終身保険の反動減によるもので、販売は引き続き好調

- 富国生命の解約失効高は2年連続で減少し、同2.5%改善
- 富国生命の解約失効率※1は、引き続き良好な水準
  2026年度上半期：1.55%
  2025年度上半期：1.55%
  2024年度上半期：1.72%
  ※1 年換算保険料ベース
- フコクしんらい生命は、利率更改型一時払終身保険で元本復帰契約の解約がやや増加

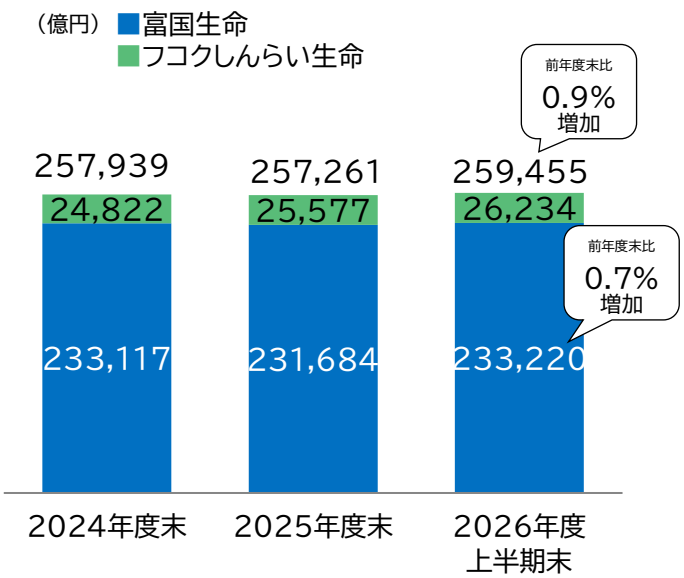
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

保険業績の状況　（２）　保有契約・保険料等収入

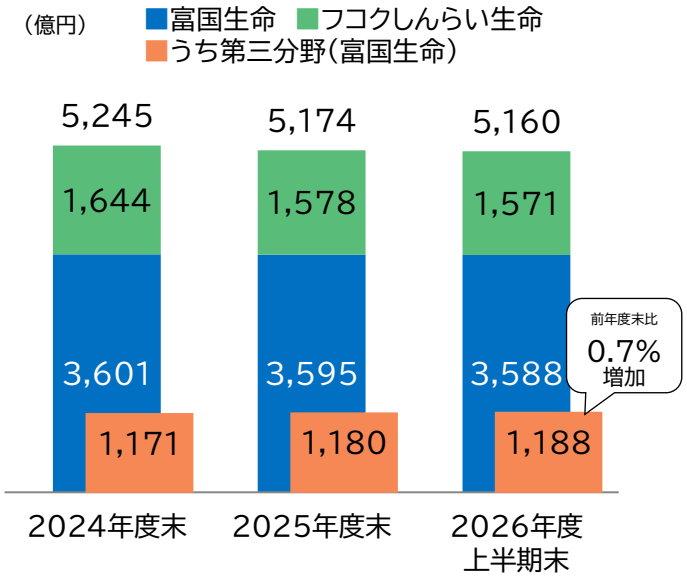
人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

＊個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高

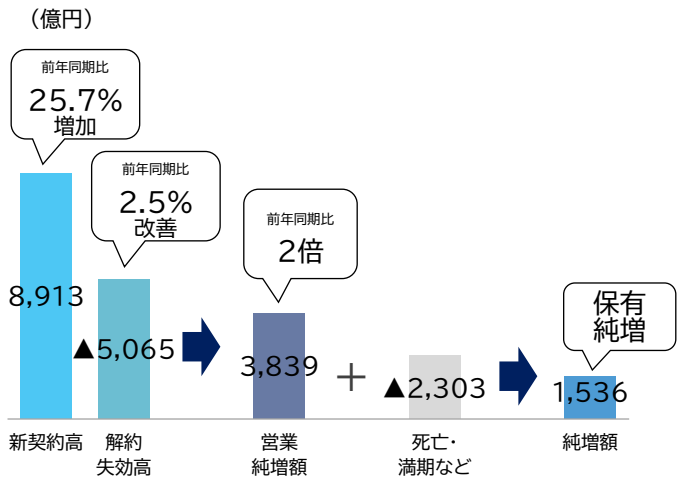


保有契約年換算保険料

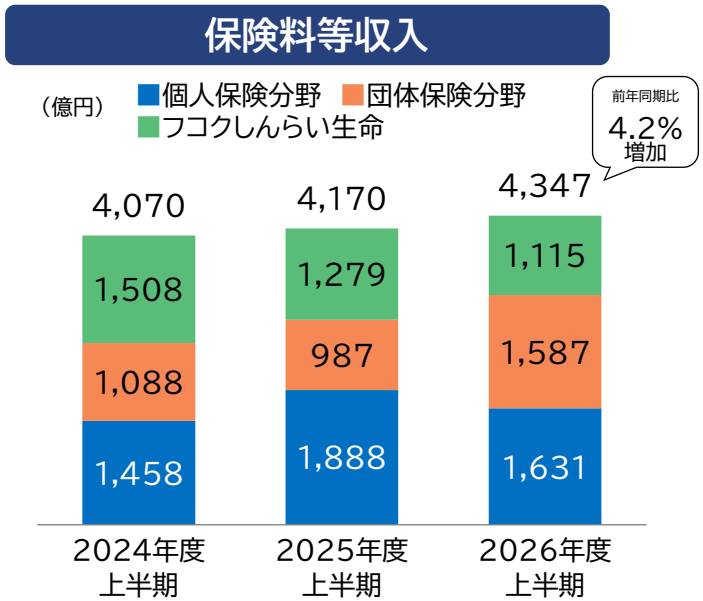


- 保有契約高は前年度末比0.9%増加。富国生命の保有契約高は同0.7%増と、上半期として2003年度以来23年ぶりに反転増加
- 保有契約年換算保険料は、フコクしんらい生命の個人年金の年金支払満了により減少したものの、その影響は縮小
- 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.7%増加。2003年度の開示以来プラス伸展を継続

保有契約高の増減（富国生命単体）



保険料等収入



- 保険料等収入は、前年同期比4.2%増と6年連続増加
- 富国生命で企業年金保険の引受けが増加し、団体保険分野で同60.7%増加

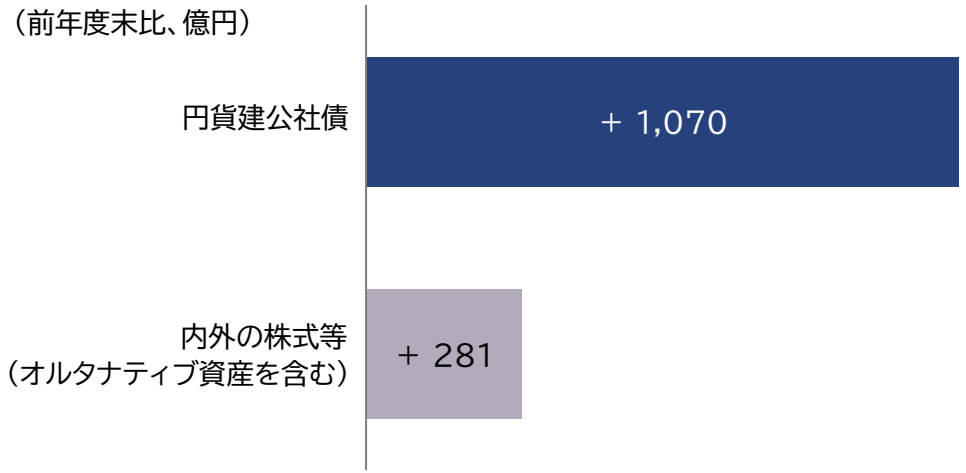
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

資産運用の状況 （１） 資産配分等（富国生命単体）

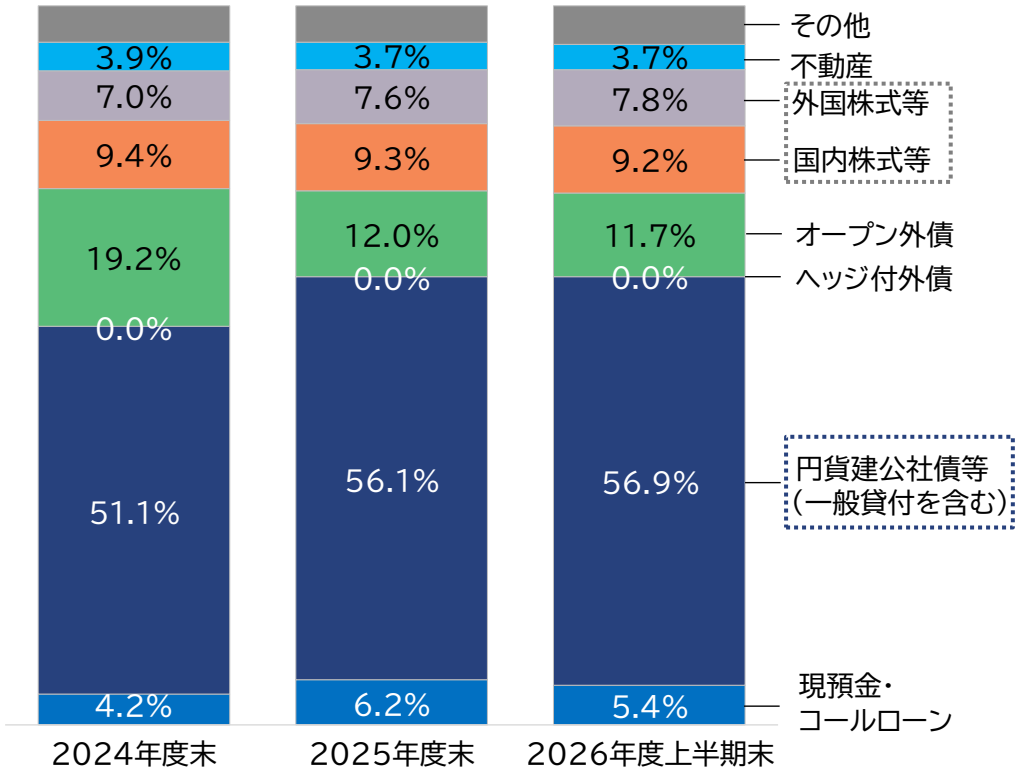
人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

- 国内金利が上昇するなか、円貨建公社債ポートフォリオにおいて、利回りの低い銘柄を売却しつつ、相対的に利回りの高い超長期国債やクレジット債を積増し。こうした取組みにより、デュレーションマッチング型ALMを推進し、収益性の向上を図るとともに、利益構造を安定化
- 内外の株式について、含み益を実現しつつ、より高い収益成長を期待できる銘柄などへ入替え。加えて、優れた運用会社を厳選し、リスク・リターン効率に優れ、既存資産とのリターンの相関が低いヘッジファンドや、期待収益率の高いプライベート・エクイティ及びプライベート・クレジットを積増し。こうした強固な自己資本を裏付けとしたリスクテイクにより、収益性の一層の向上を追求

主な運用資産の帳簿価額残高の増減額



一般勘定資産の資産構成比（帳簿価額ベース）



Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

資産運用の状況 （2） 利息及び配当金等収入・利差益（富国生命単体）

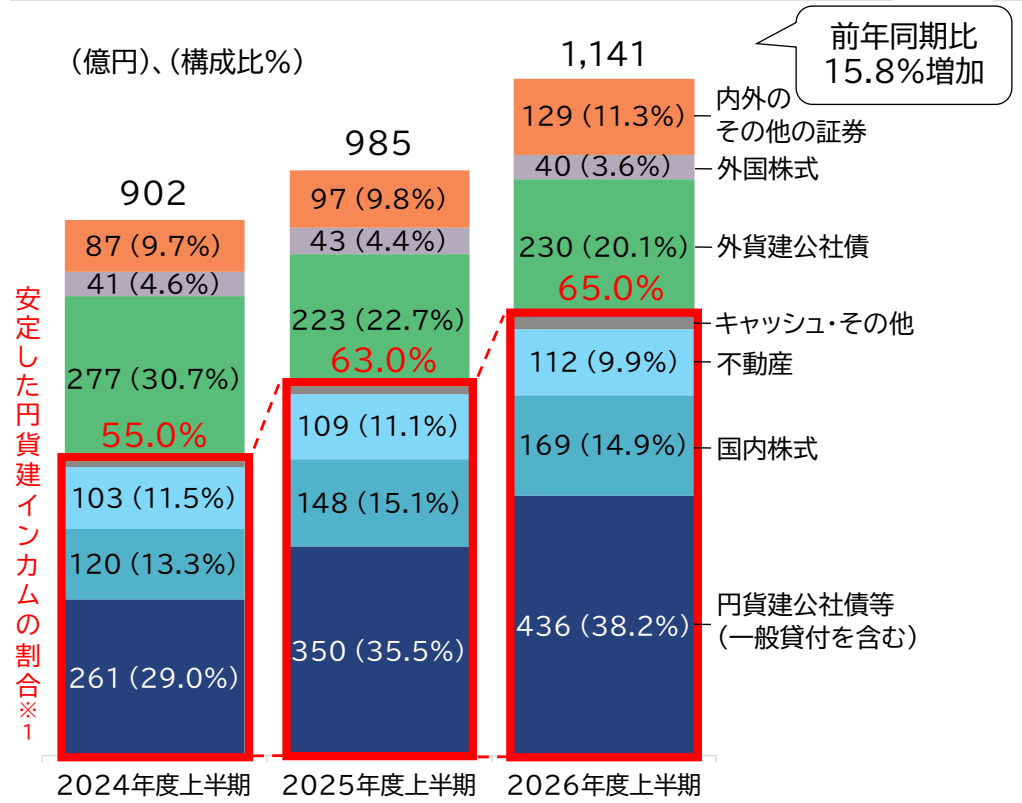
人と人の間に フコク生命 THE MUTUAL

■ 利息及び配当金等収入は、前年同期比15.8%増加の1,141億円。円貨建公社債からの利息に加え、国内株式の配当、不動産賃料といった相対的に安定した円貨建のインカムの割合が上昇

主な増加要因
- ✓ 超長期国債及びクレジット債の積増しや、利回り向上のための銘柄入替による円貨建公社債利息の増加
- ✓ 国内株式の増配
- ✓ 株価上昇による株式ファンドの分配金の増加

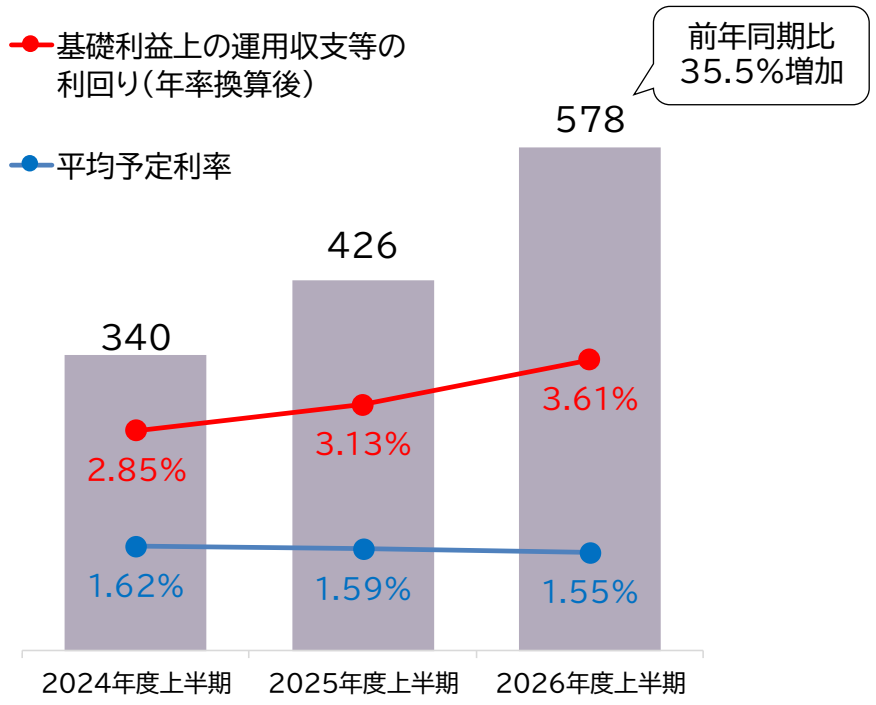
■ その結果、基礎利益上の運用収支等の利回り（年換算後）は3.61%に上昇し、利差益は578億円と大幅に増加

利息及び配当金等収入の状況



※1 為替、株価変動の影響を受けない

利差益の状況



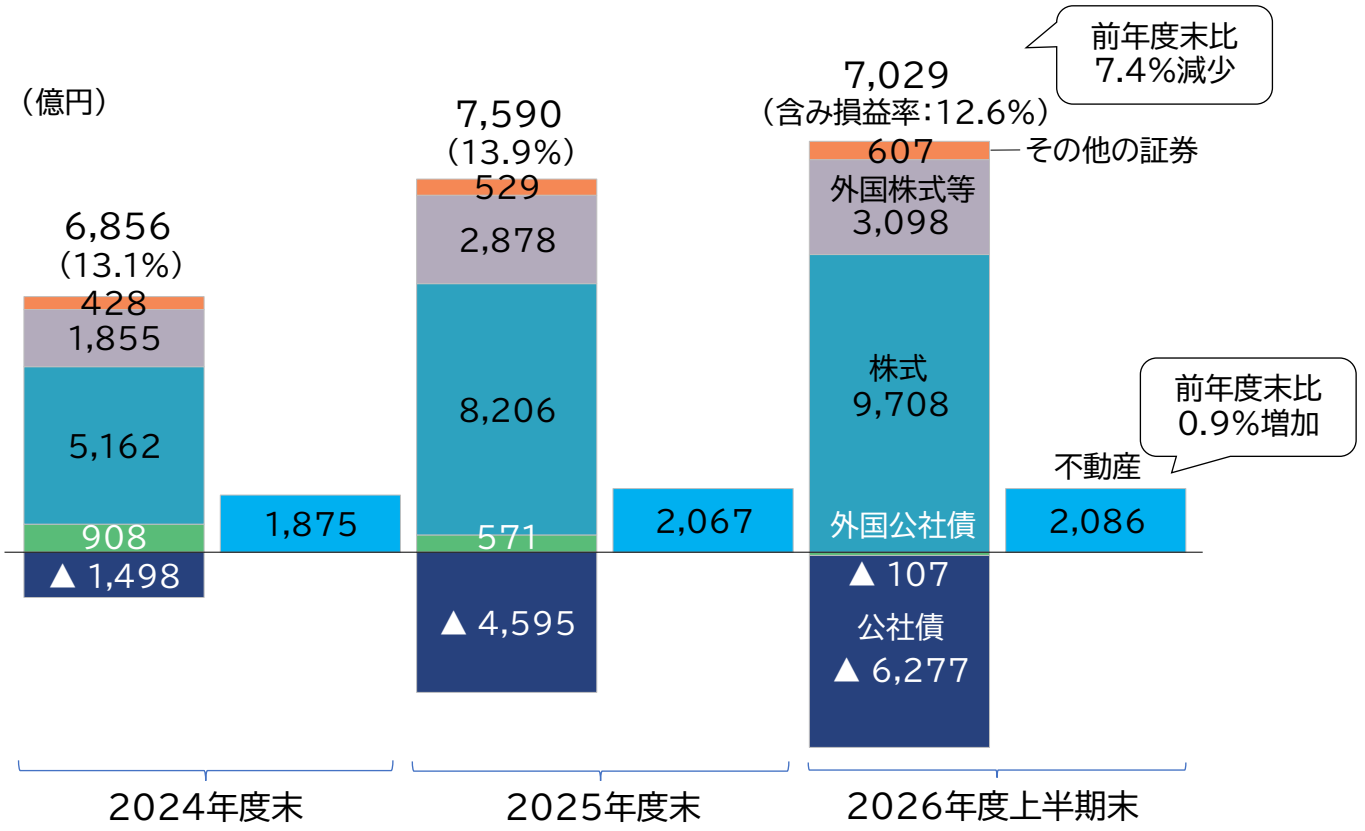
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

資産運用の状況 （３） 有価証券・不動産の含み損益（富国生命単体）

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

- 有価証券の含み損益は、前年度末比7.4%減少の7,029億円
  - ✓ 公社債の含み損は、国内金利の上昇により増加したものの、他の資産では十分な含み益を有しており、全体では高水準の含み益（含み損益率：12.6%）を確保
- 不動産の含み損益は、同0.9%増加の2,086億円

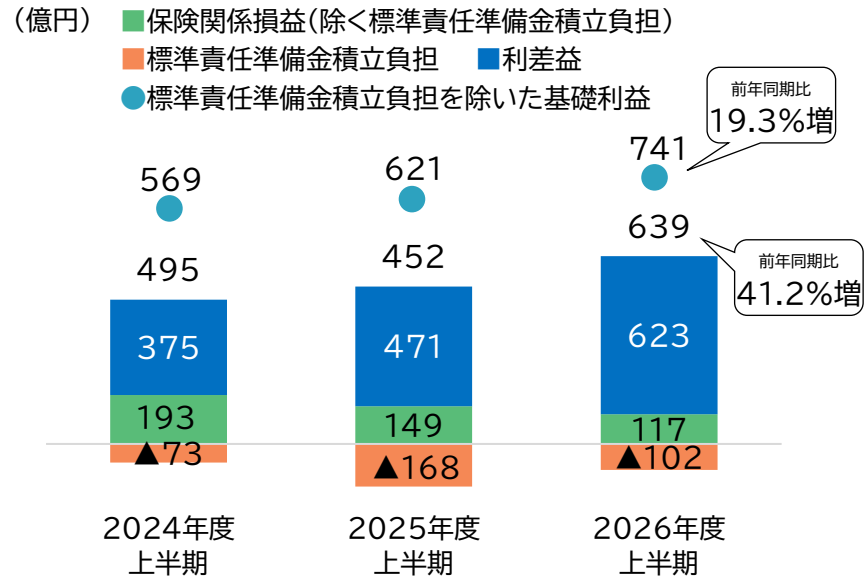
有価証券・不動産の含み損益



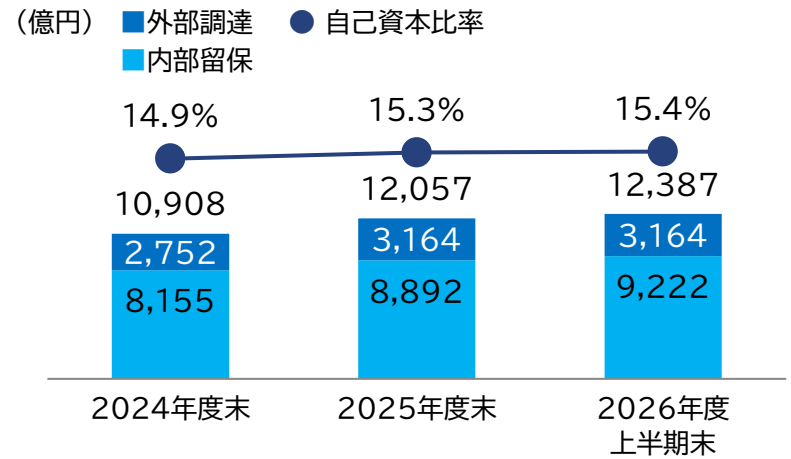
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

基礎利益、自己資本の状況

基礎利益（富国生命、フコクしんらい生命合算）



自己資本の内訳および自己資本比率（富国生命単体）



- 基礎利益は前年同期比41.2％増加。標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は、同19.3%増の741億円と4年連続過去最高
- 円貨建公社債利息の増加や株式の増配などにより、富国生命の利差益は過去最高となり、全体を押上げ
- 経常利益は同1.9倍の783億円

＜基礎利益・経常利益（富国生命単体）＞

（億円）

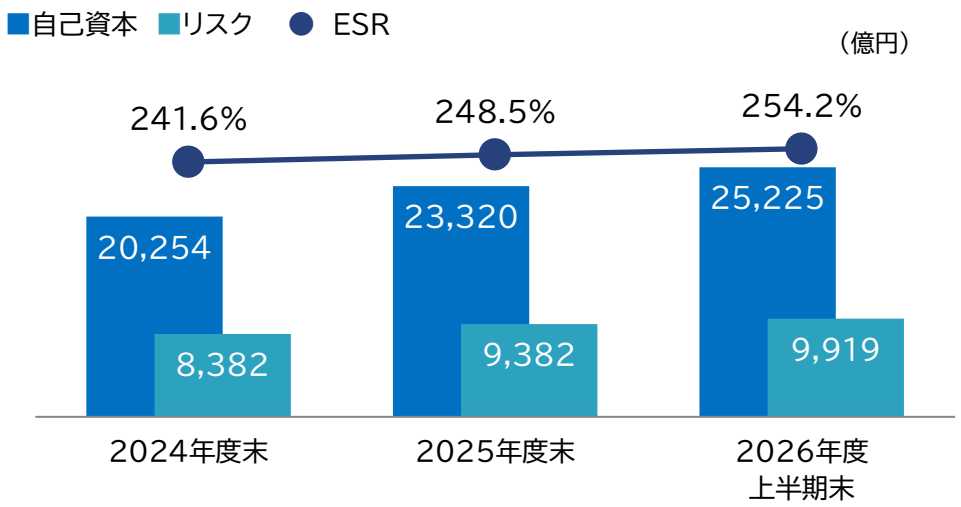
	2024年度上半期	2025年度上半期	2026年度上半期
【経営指標】標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益	**516**	**551**	**674**
経常利益	**548**	**413**	**783**
基礎利益	447	388	577
キャピタル損益	168	83	258
うち有価証券売却益	485	888	372
臨時損益	▲67	▲57	▲53

- 有価証券や土地の含み益に頼らないオンバランスの自己資本を重視し、市場動向に左右されない健全性を追求
- 自己資本比率は、15.4%と引き続き業界最高水準

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

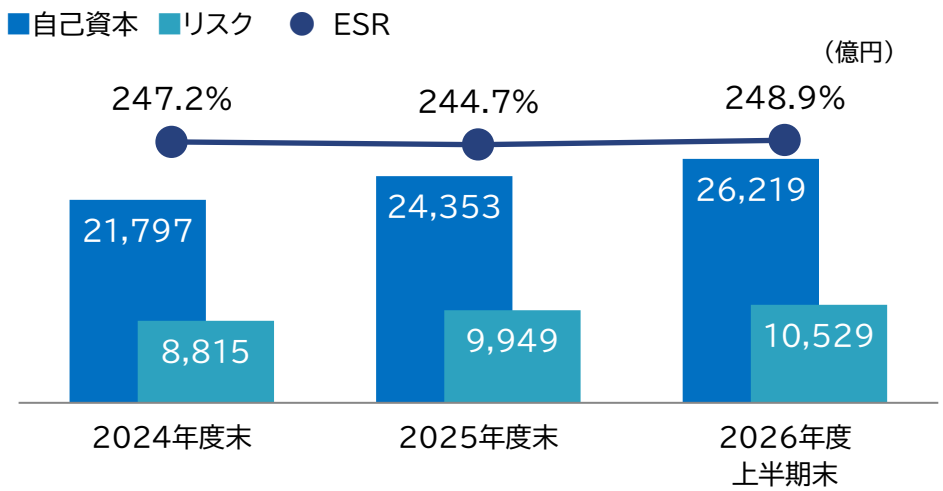
ソルベンシー・マージン比率(ESR)の状況

単体ESR(内部モデル)



- 単体ESRは、前年度末比5．7ポイント上昇し254.2%
- オルタナティブ資産の積増し等によりリスクが増加した一方で、新契約価値の上乗せにともなう自己資本の増加などにより上昇

連結ESR(内部モデル)



- 連結ESRは、前年度末比4．2ポイント上昇し248．9%

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

２０２６年度業績見通し

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

- 保険料等収入は、富国生命・フコクしんらい生命ともに増加する見通し
- 経営指標である標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は、好調な業績を背景に2社合算、富国生命で2025年度決算報告時から上方修正（なお、基礎利益も2社合算、富国生命ともに「増加」と上方修正）

保険料等収入

（億円）

	2025年度（前年度比）	2026年度	
		前回※1	今回
2社合算	7,737（+16）	増加	増加
富国生命	5,680（+809）	増加	増加
フコクしんらい生命	2,056（▲792）	増加	増加

基礎利益※2

（億円）

	2025年度（前年度比）	2026年度	
		前回※1	今回
2社合算	1,439（+128）	横ばい	増加
富国生命	1,306（+107）	横ばい	増加
フコクしんらい生命	132（+20）	減少	減少

※1 2025年度決算報告時
※2 経営指標である標準責任準備金積立負担を除く基礎利益

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

主要業績（２社合算、富国生命、フコクしんらい生命）

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

（億円）

	2024年度上半期	2025年度上半期		2026年度上半期	
			増減率/pt		増減率/pt
新契約年換算保険料(※1)	187	184	▲ 1.5%	157	▲ 14.3%
富国生命	84	94	12.0%	83	▲ 11.7%
フコクしんらい生命	102	89	▲ 12.7%	74	▲ 17.1%
新契約高(※1)	8,304	8,801	6.0%	10,635	20.8%
富国生命	6,489	7,092	9.3%	8,913	25.7%
フコクしんらい生命	1,814	1,709	▲ 5.8%	1,721	0.8%
保険料等収入	4,070	4,170	2.5%	4,347	4.2%
富国生命	2,561	2,891	12.9%	3,234	11.9%
フコクしんらい生命	1,508	1,279	▲ 15.1%	1,115	▲ 12.8%
基礎利益(※2)	569	621	9.2%	741	19.3%
富国生命	516	551	6.8%	674	22.3%
保険関係損益	175	124	▲ 29.1%	95	▲ 23.0%
利差	340	426	25.5%	578	35.5%
フコクしんらい生命	52	69	32.0%	66	▲ 4.2%

	2024年度末	2025年度末		2026年度上半期末	
			増減率/pt		増減率/pt
保有契約年換算保険料(※1)	5,245	5,174	▲ 1.4%	5,160	▲ 0.3%
富国生命	3,601	3,595	▲ 0.2%	3,588	▲ 0.2%
フコクしんらい生命	1,644	1,578	▲ 4.0%	1,571	▲ 0.4%
保有契約高(※1)	257,939	257,261	▲ 0.3%	259,455	0.9%
富国生命	233,117	231,684	▲ 0.6%	233,220	0.7%
フコクしんらい生命	24,822	25,577	3.0%	26,234	2.6%
ESR(※3)	—	244.7%	▲ 2.5pt	248.9%	+ 4.2pt
富国生命	—	248.5%	+ 6.9pt	254.2%	+ 5.7pt

※1 個人保険と個人年金保険の合計
※2 経営指標である標準責任準備金積立負担を除く基礎利益。なお、基礎利益（2社合算）は、2024年度上半期：495億円、2025年度上半期：452億円、2026年度上半期：639億円
※3 内部モデル

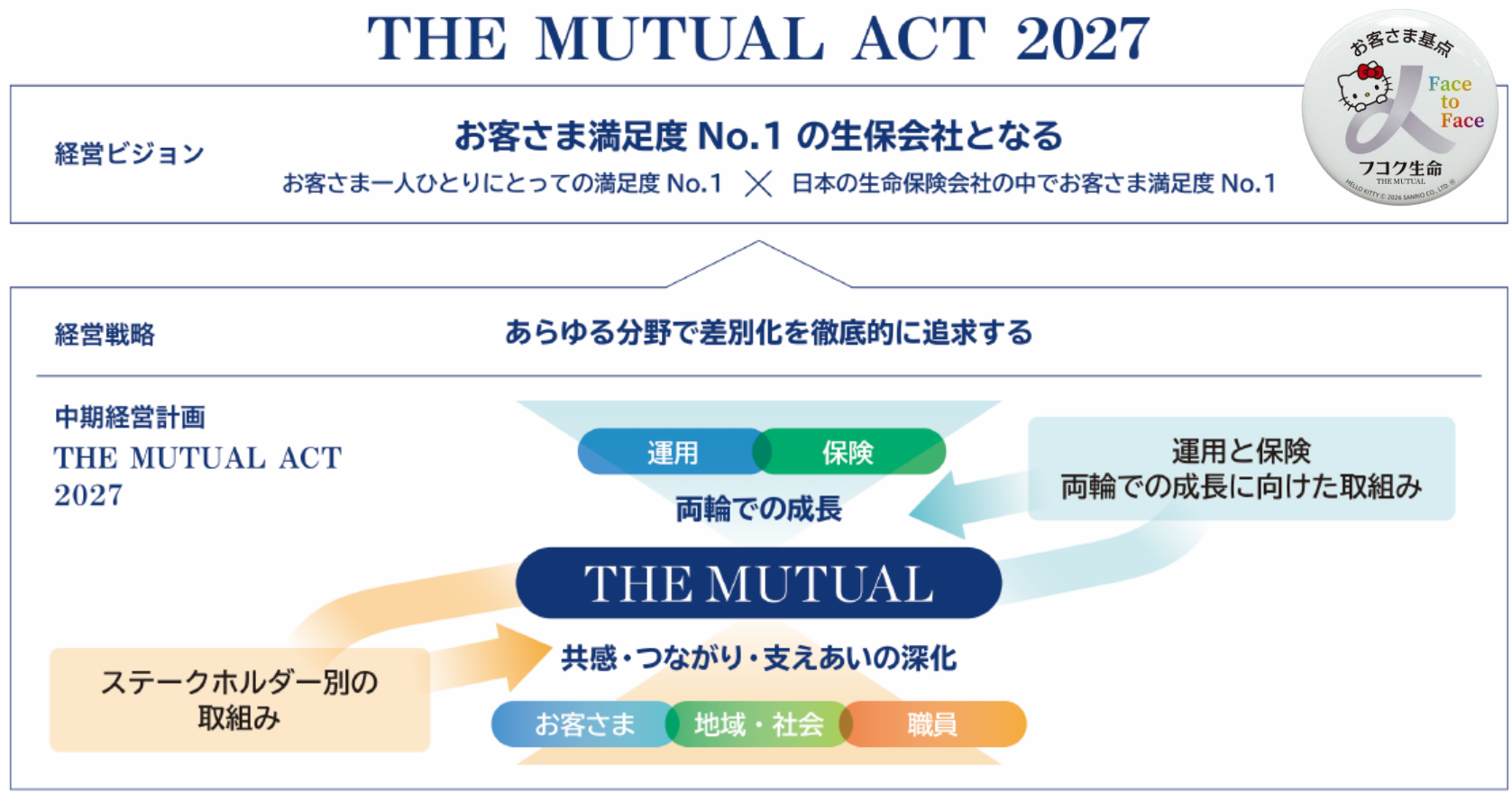
Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」｜全体像

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

■「最大たらんよりは最優たれ」という社是のもと、質を重視した経営を実践し、経営理念で掲げる3つの主体である「お客さま」「地域・社会」「職員」にとって「最優の生命保険相互会社」となることを目指す

■ 当社の強みである資産運用で得た収益を、保険分野の競争力強化に資する投資に充て保険収支の向上を図る「運用と保険、両輪での成長に向けた取組み」と、「お客さま」「地域・社会」「職員」との共感・つながり・支えあいの深化に向けた「ステークホルダー別の取組み」の2つの柱で構成



Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」｜取組み

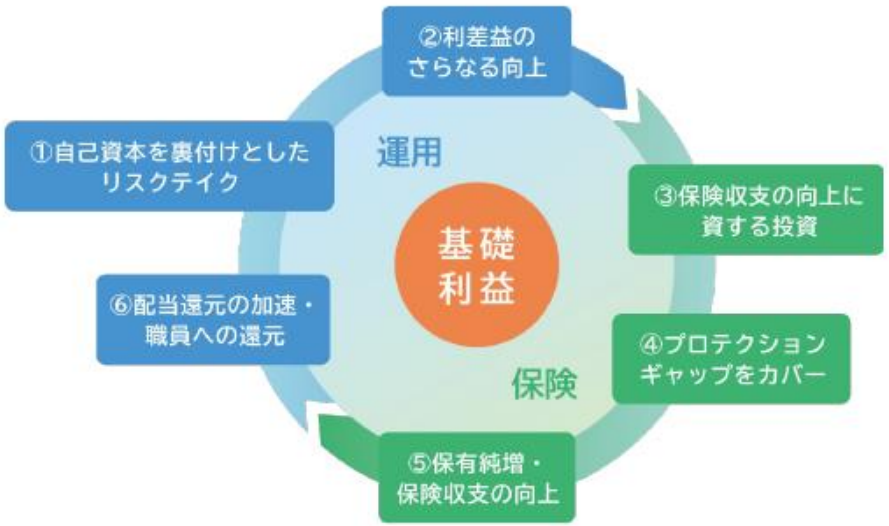
人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

■「ご契約者本位」という想いのもと相互会社として創業。「お客さま基点」を最も大切にしなければならないあらゆる企業活動の原点である価値観と位置づけ実践

■「最大たらんよりは最優たれ」という社是のもと、「最優の生命保険相互会社」を目指し、「運用と保険、両輪での成長に向けた取組み」を推進

運用と保険、両輪での成長に向けた取組み

- 「相互会社としての使命」である配当還元の加速を図るためには成長し利益を上げていくことが必要。当社は、これを海外保険会社の買収や他業態への進出ではなく国内生保事業に集中することで実現
- 当社の強みである資産運用で得た収益を、保険分野の競争力強化に資する投資に充て、保険収支の向上を図っていく



【プロテクションギャップの推移】

	①万が一の場合の必要生活資金	②世帯主平均加入死亡保険金額	カバー率（②÷①）
1997年	7,113万円	2,732万円	38.4%
2009年	5,804万円	1,768万円	30.5%
2024年	6,283万円	1,258万円	**20.0%**

（出典）生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」より、2人以上世帯におけるプロテクションギャップを富国生命で作成

- 生命保険事業はストックビジネスであり、お約束している保険契約の保障総額である保有契約高を継続して増やしていくことが、安定的に収益を確保する上で重要な要素
- 足許拡大しているプロテクションギャップ（お客さまが本当に必要としている保障額と実際の加入額との差）のカバーを最重要課題として取組み、契約高ベースの純増（保有純増）を実現

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」｜進捗と成果

人と人の間に フコク生命 THE MUTUAL

■ 金利ある世界およびインフレ下において、返戻率の高い魅力的な貯蓄性商品の提供、プロテクションギャップのカバー、そして配当還元の加速による実質的な保険料負担の軽減により、国内生保市場での成長を実現

①自己資本を裏付けとしたリスクテイク

◆ **業界最高水準の自己資本比率**

- 自己資本は前年度末比329億円増加、自己資本比率は15.4%

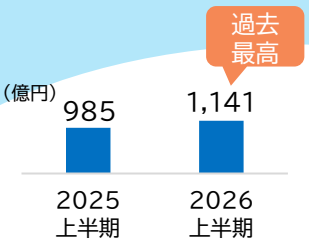
◆ **ALMを基調としつつ、適切なリスクテイクを実践**

- 引き続きALMを推進するとともに、市場環境に応じたリスクテイクにより、利益の安定化とさらなる収益性の向上を図る

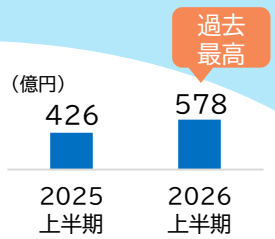
②利差益のさらなる向上

◆ **高水準の利差益を安定的に確保できる利益構造**

＜利息及び配当金等収入＞



＜利差益＞



③保険収支の向上に資する投資

◆ **魅力的な貯蓄性商品の販売**

- 2026年4月より、学資保険を業界最高水準の返戻率に引上げ

◆ **認知度向上のための広告展開**

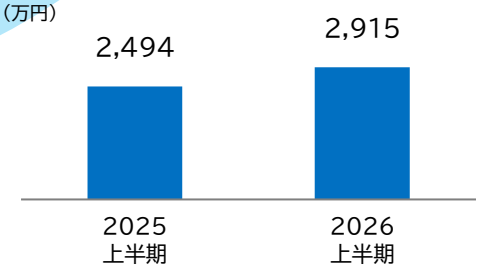
- 俳優の池田エライザさんを起用した新たなCMを公開
- 20代～30代の認知度が大幅に向上

④プロテクションギャップをカバー

◆ **お客さまに必要な保障額を提供**

- 保障性商品「未来のとびら」の1件当たりの保障額は前年同期比16.9%増加

＜「未来のとびら」1件当たりの保障額※1＞

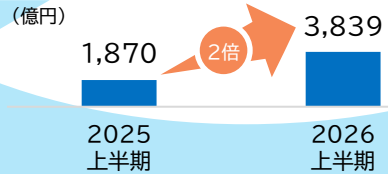


※1 20～49歳の医療パック契約

⑤保有純増・保険収支の向上

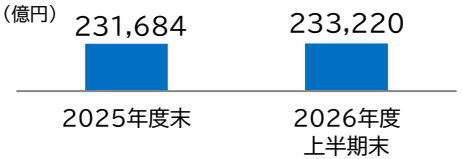
◆ **営業純増額は前年同期比2倍**

＜営業純増額（新契約高-解約・失効高）＞



◆ **保有契約高は上半期として23年ぶりに純増**

＜保有契約高＞



⑥配当還元の加速・職員への還元

15年連続の増配および保険料2年分の配当還元に向けて取組みを推進

2025年度決算

10年累計配当金＝保険料1.5年分を上回る → 10年累計配当金＝保険料2年分へ

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」｜経営指標

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

- 2025年度決算では代表的な保障性商品の契約における10年累計配当金は保険料の1.5年分を上回り、これを2年分まで引き上げることを目指している
- インフレの時代だからこそ、できるだけ多く配当をお返しし、家計の負担を軽くしたい。より多くのお客さまに配当内容の理解を深めていただくために、新たに有配当認識率を経営指標に追加

【経営指標の状況】 基礎利益、自己資本、ESRは2年前倒しで達成

✓:達成項目

		2024年度（中計スタート時）	2025年度	2026年度上半期	2027年度（目標）
1	基礎利益※1	1,198億円	✓ 1,306億円	674億円（2025年度上半期：551億円）	1,200億円
2	自己資本	1兆908億円	✓ 1兆2,057億円	✓ 1兆2,387億円	1兆2,000億円
3	ESR※2	241.6%	✓ 248.5%	✓ 254.2%	230～270%
4	配当※3	保険料1.2年分	保険料1.5年分を上回る	－	保険料2年分
新 5	有配当認識率※4	20.8%	25.3%	－	75.0%

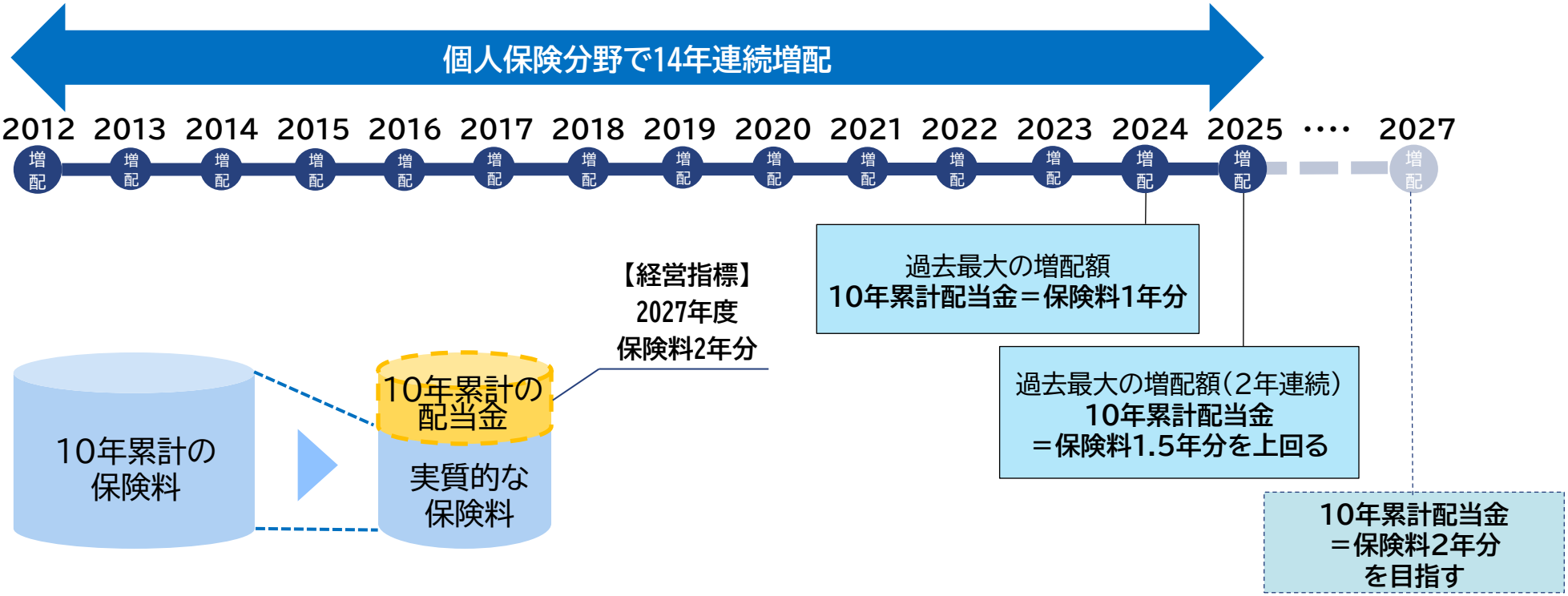
※1 標準責任準備金積立負担を除く ※2 富国生命内部モデル ※3 代表的な保障性商品の契約における10年累計配当金 ※4 当社ご契約者アンケートによる調査

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】配当還元の加速｜相互会社としての使命

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

- 当社は創業以来、相互会社形態を貫く日本で唯一の会社。ご契約者が保険団体を構成し互いに助け合う「相互扶助」が保険の精神であり、相互会社は「相互扶助」から生まれたご契約者を中心とする組織
- 配当還元の充実を通じて、ご契約者の実質的な保険料負担の軽減に努めることが「相互会社の使命」との考えのもと、個人保険分野で14年連続の増配



＊生命保険はご加入から保険金等のお支払いまで長期にわたる契約であり、いかなることがあっても保険金等を確実にお支払いすることが保険会社として最も重要な責務。したがって、経済環境の激変や未曾有の大災害などに耐えうる健全性を確保するとともに、合理的かつ公平に保険料を設定することが基本と考える。そのうえで、事業における成果を配当として還元することにより、ご契約者の実質的な保険料負担の軽減に努めている。

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026

【ご参考】配当還元の加速｜予想配当金例 －貯蓄性商品

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

■ 当社の貯蓄性商品はすべて有配当商品であり、増配により配当込みの返戻率が向上

保険種類	契約例	払込保険料総額	予想配当金を含む受取額	保険料に対する返戻率
ふやして 選べる 一時払終身保険 グッとアップ 一時払終身保険(有配当・告知不要型)	2026年度加入 男性、50歳 経過30年目 一時払保険料 100万円	100万円	176万円	176.6%※1
いっしょに育む、こどものみらい みらいのつばさ 学資保険(有配当/2026)	2026年度加入 0歳(契約者:男性、30歳) J型、11歳払込満了 口座振替月払 満期保険金額 100万円	161万円	211万円	130.6%※2
私らしく、未来をかなえる みらいプラス 災害死亡給付金付個人年金保険	2026年度加入 保険料払込期間30年 据置期間10年 10年確定年金(定額型) 口座振替月払 月払保険料 10,000円	360万円	617万円	171.4%※3

(※1)経過30年目の解約返戻金と配当金累計額の合計額(1,766,630円(うち配当金累計額353,600円))÷一時払保険料(1,000,000円)
(※2)満期保険金・祝金受取総額と配当金累計額の合計額(2,110,000円(うち配当金累計額110,000円))÷払込保険料総額(1,614,492円)
(※3)年金受取総額と配当金累計額の合計額(6,173,800円(うち配当金累計額1,472,800円))÷払込保険料総額(3,600,000円)

予想配当金は2025年度決算の配当率で据え置いたものとして算定しており、配当積立利率(0.75%)による利息を加えています。

(上記の予想配当金および返戻率は確定したものではありません。)

Fukoku Mutual Life Insurance Company © All Rights Reserved 2026